

度会郡の4町（玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町）と多気郡大台町の5町が連携し、三重県子どもNPOサポートセンターに委託してファミリーサポート事業を実施しています。



提供会員養成講座を終えて

5月14日・15日・21日・22日の4日間にわたって、28年度提供会員養成講座を玉城町健康福祉会館で開催しました。受講者は16名（玉城町6名・度会町3名・いせファミリー・サポート・センター補講受講者6名・まつさかファミリーサポートセンター資質向上受講者1名）の参加でした。講座終了後、2名の方が登録をして頂きました。

受講者の方々は、初めは緊張した様子も見られましたが、講座の中でグループを作って話し合ったり、実技講習を受けたりするうちに、距離も縮まり、和気あいあいとした雰囲気の中で受講する姿が印象的でした。

これからも、それぞれの地域の子どもたちを、多くの大人の目で見守っていくために受講していただける方を増やしたいと思っています。また、子育て中のお母さん方にも、子育てのヒントがたくさんつまんだ講座内容となっていますので、多くの方に講座を聞いていただけたらと考えています。

大台町ファミリー・サポート・センター アドバイザー 西村理沙



提供会員養成講座を受講して

4日間にわたる講座で、いろいろな角度から子育てについて学んだ。まずは、子育てをとりまく現代の社会環境、子どもの発育・発達について、子どもの遊びやいざという時の応急処置などなど……。今まで「何となく分かっている」と思っていたことがそうでもなく、新しく知り得たことが、とても多かった。我が子の小さい頃、こういう知識を持っていたら、もう少し余裕をもって育児できたかも、と思う内容も多々あった。

さて、受講を終えて一番強く考えることは、子育ては大人全体の責任、ということだ。子どもの育ちは、環境の違いや、保育者がどう関わるかによって、大きく違ってくる。お母さんだけではうまくいかない時もある。そこを周りの大人が、どう支えていくのか。自分には何ができるのか。いろいろと考えさせられた4日間だった。

M.A



この4月から新しく玉城町の担当になりました玉城町生活福祉課子育て担当の上村です。今年度提供会員養成講座が玉城町で開催され、また、私も今年度からファミリー・サポート・センター事業の担当となりましたので、全講座を受講させていただきました。

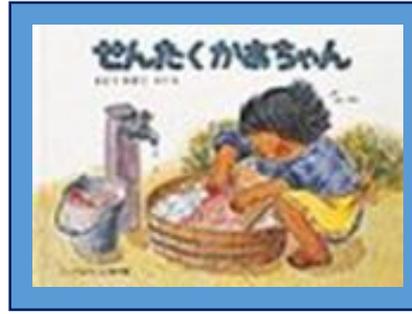
講座の内容は、質が高く、具体的で分かりやすく、母親として、保育士として改めて学ばせていただき、自分自身を振り返るととても良い機会となりました。5月の第2・第3土日の4日間、他の受講生の方々と一緒に受講させていただくことで、この講座の良さ、今後受講していただく方を増やしていくための課題等も自分なりに感じる事ができる良い機会となりました。

今年度も「安心して子どもを生み育てられるまち」として玉城町の子育て支援を充実させていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

玉城町生活福祉課子育て担当 上村亜由子

親子で楽しい絵本コーナー

さとうわきこ作・絵
福音館書店
ばばあちゃんのシリーズでおなじみのさとうわきこさんの絵本です。
洗濯が大好きなかあちゃんは、何でも洗濯しちゃいます。
空から落ちたかみなりさまを洗濯したら・・・。
この季節にお薦めの絵本です。



きうちかつ作・絵
福音館書店
1ページごとに「これ なあに？」と身近な野菜のおなかを見せてくれます。
きれいな色と形を楽しんでください。
大人も自然の造形美に改めて感動できる絵本です。

6月末までの各町の状況

	依頼会員	提供会員	両方会員	計	活動件数
大台町	54	47	8	109	0
玉城町	90	51	7	148	58
南伊勢町	9	9	1	19	0
大紀町	13	25	1	39	0
度会町	21	14	2	37	0
計	187人	146人	19人	352人	58件

こんな内容で利用されています！！

- ・ 保育所や学童への送迎
- ・ 病児保育への送り
- ・ お母さんの休養・仕事・外出の際の一時的な預かり
- ・ 習い事への送迎

など

各町の担当者紹介

今年度の各町の担当者を紹介します。

✳玉城町	上村亜由子	生活福祉課
✳度会町	中井玲奈	住民生活課福祉係
	小林なつみ	子育て支援センター
✳大紀町	玉井紀秀・大西真也	健康福祉課
✳南伊勢町	川口みのり	福祉課福祉係
	西本志乃	子育て支援センター
✳大台町	浦中克実	町民福祉課
	立井雄大	子育て支援センター



よろしくお願いします

みえ子育て支援・緊急サポートネットワーク

✳南勢志摩地域センター

(玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町ファミリー・サポート・センター)

TEL&FAX 0596-23-3938

〒516-0037 伊勢市岩渕2丁目3番13号

NPO法人三重みなみ子どもネットワーク内

✳多気郡地域センター

(大台町ファミリー・サポート・センター)

TEL&FAX 0598-22-1950

〒515-0084 松阪市日野町788 刈ヱガサ 1階

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター内

子どもには一人ひとり個性があり、発育・発達も個人差が大きいものです。親の思った通りにいかないことがいっぱいあります。育ってくるのをあせらずに待ち『はぐくむ』ことが大切です。子どもも親も一緒に育っていくのが育児です。はじめからうまくいかないのが当たり前。だって・・・はじめて同士だもの！

Q

食事中すぐに飽きてしまって、立ち歩いたり、遊んでしまったりしてご飯が進まないんです…。折角作ったのにな…。



ちょっとでも、食べてほしいのだけど…。栄養面が心配だわ…。



さっきおやつ食べたから、まだお腹空いてないもん！

もっと遊びたかったんだもん！

今は食べるのに興味が無いの。



今はおもちゃで遊びたいんだもん！

テレビがついているから、見たいんだもん！

Q

ぐちゃぐちゃにされるのが嫌だわ…。片づけも大変だし…。



ごはん、にぎにぎするのっておもしろいな♪

つまんだり握ったりしやすい形状にしてもらえると、食べやすいよ。



自分で食べたいんだもん！

ドロドロしたものばかりじゃなくて、もっといろんなものが食べたいな。

A

お子さんの遊び食い・立ち歩きは、約半数の親御さんが悩んでいます。

2歳前後の発達過程の時期に発生しやすい現象で、いずれ卒業できるのですが、対応を間違えると長引いたり、こじらせたりするので、子どもの気持ちをくみ取りながらもけじめのある食生活を心掛けましょう。望ましい対応として、ご飯の前はお腹が空くリズムにすることで美味しく楽しく食べることができます。食前のほんの少しの間食が食欲に影響するので、間食の与え方には気を付けましょう。また、食事に集中出来るよう食卓の近くにおもちゃや関心を引くようなものを置かないようにし、気を散らせないよう周囲の人も他のことをしないで（テレビはつけない）一緒に食卓につく。食べたくない時は無理強いせず、食事30分くらいで切り上げるようにしましょう。少し安定するまで家族みんなで協力しましょう！

子どもには、食事と遊びの区分はありません。食事の手洗いや、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶などで区切りをもたせるようにすることも大切です。

✿提供会員養成講座で「子どもの栄養と食生活」をご講義いただいている馬場啓子先生より





《みんなネットニュース 2015 年 4 月号より引用》

「ニュージーランド子育て支援視察」④

◆2014 年 9 月 20 日～25 日／主催：三重県子ども NPO サポートセンター



【9 月 23 日】

視察第 3 日目はオークランドです。オークランド 11:05 着。クライストチャーチより暖かく、着いたときは暑いくらいでしたが、夕方は寒くなるとのことでした。

‘BARNARDOS ROYAL OAK’を訪問しました。

Dr. THOMAS BARNARDOS がイギリスで、家にご飯を食べられない子どもを集めて育て、1970 年にニュージーランドに来て、母子のための家を作ったのが始まりだそうです。全国に 8 か所あります。リスクの高い家庭と子どもへの支援です。

ファミリーサポートチームとフォスターファミリーチームがあり、ファミリーサポートチームは運営資金の 76%が国から出ており、24%が寄付などで賄われています。フォスターファミリーチームは 100%国からの資金です。

ファミリーサポートチームはソーシャルワーカーが担当し、0 歳～18 歳までの子どもが家庭で虐待など受けないように、社会で生きていけるようにサポートします。昨年は 200 人の子どもと 600 家族をサポートしたそうで、経済的、物質的なサポートを地域の人とともに行うとのことでした。

エデュケーションという教育システムがあり、家庭で行うもの（ホームベース）と施設で行うものがあります。ホームベースは 1 人で 2 歳以上 2 人と 2 歳以下 2 人の計 4 人の子どもを見るのが基本です。ホームエデュケーター（ホームベースで教える人）は教師の資格はいらないのですが、教師と連携を取っているようで、2 歳以下の子どもかリスクのある子どもに向いているとのことでした。

また、ペアレンティングサポートというプログラムがありますが、子どもが暴力的になった時などに、どう収めるかなどを 10 家族くらいがグループになり学ぶそうです。子どもが暴力的になるには親にも原因があるので、日本の養育支援のような家庭に入っていくサポートもあるし、このような親への教育もあるそうです。



フォスターファミリーチームの仕事は、里親紹介（ほとんどが虐待事例）とその後のケアフルケア（里親と子ども両方一緒にケアするもの）と、シェアードケア（里親と子どもを別々にケアするもの）とのことでした。

里親啓発は、ラジオ・新聞・チラシなどで行い、希望者はチェックを経てソーシャルワーカーの面接を受けます。

他に 7 歳～17 歳の青少年 5 人くらいに、スタッフ（ソーシャルワーカー）2 人で 1 件の家に住む BOYS HOUSE というシステムがあるそうです。また、電話相談もしているとのことでした。

（秋山）

